

平成21年度
町会・自治会活性化キャンペーンの記録

町会・自治会交流会

平成22年3月

世田谷区町会総連合会

目次

1. 町会・自治会交流会の概要	1
2. 世田谷区町会総連合会 後藤正三会長 挨拶	2
3. 世田谷区 森下尚治副区長 挨拶	3
4. 町会・自治会活性化キャンペーンを振り返る 世田谷区町会総連合会事務局	4
5. 講演 「町会・自治会の役割と課題」	5
●山梨の町会活動	5
●町会・自治会の定義 ～地縁的親睦団体、日本特有の地方自治システムをなす住民組織～	5
●町会・自治会の由来 ～近現代日本の地方自治の歴史的産物～	5
●町会・自治会の特徴 ～社会資源の提供による行政との協働体制～	6
●行政との連携事業の現状	6
●行政が町会・自治会に期待する機能	6
●地域の付加価値を高める町会ならではの活動 ～地方分散的公共サービス～	7
●町会・自治会ならではの活動 ～コミュニティ・ルールによる地域自治～	7
6. パネルディスカッション	9
7. 世田谷区町会総連合会 長島清一副会長 挨拶	24

1. 町会・自治会交流会の概要

世田谷区町会総連合会では、町会・自治会相互の交流と情報交換を行うため、町会・自治会交流会を平成19年より毎年実施してきました。

今年度は、以下のとおりに実施しました。

日時： 平成21年12月8日(火) 午後1時～4時

会場： 北沢タウンホール

内容：

【第1部】

挨拶 世田谷区町会総連合会 後藤会長

世田谷区 森下副区長

報告 町会・自治会活性化キャンペーンを振り返る

講演「町会・自治会の役割と課題」

山梨学院大学法学部政治行政学科 日高昭夫教授

～休憩(10分)～

【第2部】

パネルディスカッション

テーマ：町会・自治会活動のさらなる活性化を考える

パネリスト：山梨学院大学 日高教授

千葉 世田谷総合支所長

根岸 若林町会長

宮崎 大蔵住宅自治会長

コーディネーター：プレイス 福永

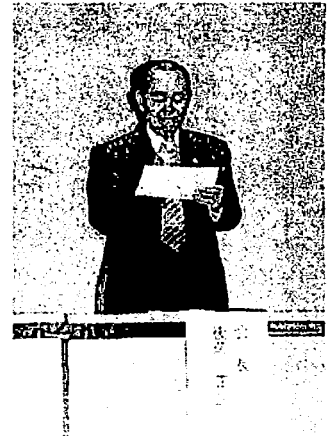
閉会 挨拶 世田谷区町会総連合会 長島副会長

2. 世田谷区町会総連合会 後藤正三会長 挨拶

会長の後藤でございます。

皆様には、お忙しい中ご参加いただき誠に有り難うございます。

また、森下副区長様を初め、区の職員の方にも多数ご参加をいただき、ありがとうございます。



世田谷区町会総連合会は区内196の町会・自治会が円滑に活動でき、親睦活動を通じて隣近所の助け合いや連携により、区民の皆様の生活の向上や、福祉の増進等に寄与できることを願って運営しております。

しかし、社会の変化に伴い町会・自治会の果たす役割や環境も大きく変わりつつあります。災害時ばかりでなく、地域住民の高齢化、核家族での子育て、さらに地域での犯罪が増加する中、安全で安心して生活できるまちづくりが期待されております。

現在、町会・自治会への加入世帯は全体の約6割となっておりますが、今後、加入の促進を図りながら、多くの皆様が地域の活動に参加され、地域の輪がひろがっていくことを願っております。

本日は、始めに、これまで重点課題として区と共同して取り組んでまいりました、町会自治会活性化キャンペーンを振り返るといことで、いままでの活性化キャンペーンの経過報告をさせていただく予定でございます。

続きまして、山梨学院大学の日高昭夫教授に「町会・自治会の役割と課題」をテーマにご講演をお願いしております。

さらに、第2部では「町会・自治会活動のさらなる活性化を考える」をテーマにして「パネルディスカッション」を実施いたします。

一歩でも町会活動の新たな方向性が見出せればと期待しております。

本日の企画が、日頃ご苦勞なさっている各町会・自治会の皆様に何かの手助けとなりますことを願ひまして挨拶とさせていただきます。

本日は本当にありがとうございます。

3. 世田谷区 森下尚治副区長 挨拶

皆さん、こんにちは。

副区長の森下でございます。

本日、このように盛大に、「町会・自治会交流会」が開催されますことを、まず、心よりお祝いを申し上げます。

町会・自治会の皆さんには、平素の区政へのご理解、ご協力に厚くお礼を申し上げます。また、日ごろ地域の中で、地域活動、地域の活性化に住民の先頭に立ってご尽力いただいておりますことに深く敬意を表する次第です。



町総連の「町会・自治会活性化キャンペーン」も平成18年度から数えますと、4年目を迎え、各地域において様々な特色ある取組みが行われているわけですが、区においても「地域の活性化・地域の絆の再生」を重点課題と捉えており、「地域の絆再生支援事業」や「地区まちづくりの強化」に取り組んでおり、また、平成22年3月をめざし、(仮称)「世田谷区地域活性化に向けた指針」の策定を進めているところです。

今後とも、区といたしましては、地域の活性化の全力で取り組んでまいりますので、引き続き、皆さんのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日の交流会が、町会・自治会の皆さんのさらなる活動の活性化の契機となり、一段と発展されますことを期待しております。

結びに、世田谷区町会総連合会の益々のご繁栄と、ご出席の皆さんのご健勝を祈念申し上げます。簡単でございますが、挨拶といたします。

4. 町会・自治会活性化キャンペーンを振り返る

世田谷区町会総連合会事務局

町会・自治会は、会員相互が助け合い親睦を図りながら、地域の安全・安心など誰もが暮らしやすいまちを目指して活動しています。

町総連は、「知りあい ふれあい 支えあい」の理念のもと、町会・自治会活動の活性化と会員の加入促進を目指して、主に以下のとおり「町会・自治会活性化キャンペーン」に取り組んできました。

年 度	主な取組み
平成18年度	町会・自治会活性化キャンペーンの準備 ① 理事研修会の開催 ② 新年親睦交流会において「加入促進に向けてのプレ宣言」を採択 ③ 世田谷区の「世田谷区町会・自治会アンケート」実施に協力
平成19年度	町会・自治会活性化キャンペーンの展開 ① 町総連総会において「加入促進に向けての宣言」を採択 ② モデル町会・自治会の取組み（3町会） ③ 活性化チラシの作成、配布 ④ 「町会・自治会交流会」の開催（事例発表と意見交換会） ※ ③、④は、都の「地域の底力再生事業助成」の助成対象事業となりました。
平成20年度	町会・自治会活性化キャンペーン第2弾 ① 町会・自治会による環境の取組み 「町会・自治会の底力をアピールしよう」を標語として、環境の取組みを推進 ② 「町会・自治会交流会」の開催（環境の取組み報告、滋賀県野洲市の自治会長及び市理事者による事例発表と意見交換会）
平成21年度	町会・自治会活性化キャンペーン第3弾 ① 町会・自治会の魅力発信—町総連広報のICT化 町総連のホームページ作成 ② まちづくり専門家派遣（1町会） ③ 「町会・自治会交流会」の開催 ※ ①は、都の「地域の底力再生事業助成」の助成対象事業となりました。

5. 講演 「町会・自治会の役割と課題」

山梨学院大学法学部政治行政学科大学院
社会科学部研究科 教授 日高昭夫氏



【町会・自治会とは何か】

●山梨の町会活動

- ・山梨学院大学で行政学を教えている日高と申します。
- ・20年ほど前に引っ越した山梨の農村地帯で、公共事業である舗装の下作業を伝統的に地元の自治会がやっていることを知り、びっくりしました。参加できない場合は、出不足金を支払い、欠席を補うルールが今でもあります。毎月1回の河川清掃、ゴミの分別の点検も各自治会の組ごとに持ち回りです。
- ・村の美しさが維持されていた背景には、伝統的なコミュニティルールや取り組みがあり、それを継承している組織がいわゆる町内会であることが改めてわかりました。

●町会・自治会の定義

～地縁的親睦団体、日本特有の地方自治システムをなす住民組織～

- ・町会・自治会は、「住民の地縁でつながっている親睦の団体である」と同時に、古いしきたりやルールの上に、今日的な課題が加わり、行政と一体となって地域の安全や快適性や環境を維持する取組を行っている組織です。広い意味で「日本独特の地方自治を支えるシステムのひとつ」、「公共サービスの担い手」とはっきりと位置づけられると考えます。

●町会・自治会の由来 ～近現代日本の地方自治の歴史的産物～

- ・町会・自治会は、日本特有の地方自治の歴史が生み出した産物であると理解できます。
- ・かつて自然村が7万5千くらいあったといわれています。それを明治20年前後に、国家の近代化を押し進めるために合併が繰り返し行われ、財政・行政基盤を拡大する政策がとられました。
- ・それまで各村・集落内部の取り決めや運営についての自治権の大部分は、合併後も継承され、それを制度上保証したのが、明治21年にできた市町村制という法律でした。この法律で、合併した行政村の一区画を区として区切り、区長、副区長をおけることになりました。実はこの区制度は法律制定主旨では例外と記されましたが、実際には区制度が原則となり広がっていきます。
- ・今は区の規模が大きくなり細分化されましたが、江戸時代から継続してきた自主的取り組みを基盤とした旧村にそのルーツがあることが確認できます。

●町会・自治会の特徴 ～社会資源の提供による行政との協働体制～

- ・歴史的に、町会・自治会は行政と密接な協働体制を形成してきたことが大きな特徴です。近代化を無理にすすめようとしても行政の人的資源・財源ではまかなえない状況になった時に、地域課題の解決に対して住民が町会・自治会の形でその解決に携わってきました。これを私は「社会資源の提供」とよんでいます。
- ・平成 20 年 4 月 1 日現在で総務省が調査した最新データでは、全国に町会・自治会組織が 29 万 4 千ほどあります。全国の行政区域でほぼ例外なく存在しており、自治体と密接な連携をとりながら、日本の地方自治を支えているのです。

【町会・自治会の役割】

●行政との連携事業の現状

- ・町会・自治会は行政と連携して行う事業が多いのが現状です。
- ・その役割のひとつは「窓口」業務です。戦時中や敗戦直後に食料の配給時に必要になった住民把握などで、かつてはこれが活動の主眼でした。
- ・「媒介（パイプ役）」の役割としては、地区の要望の取り次ぎ、各種委員の推薦などです。東京で多いのは、非定期や緊急のお知らせの配布や回覧です。
- ・「社会資源の提供（協働）」の役割としては、特に東京で今町会が重要視しているのが防災訓練や防災マップ、防犯活動であり、全国平均に比べてかなり多いです。
- ・地区要望の取りつきなどは、むしろ東京は低いですが、他の自治体では住民参加システムのひとつとして機能しています。一方、議会制度が充実したり NPO や住民参加制度が充実した地域の町会・自治会は、幅広い活動の焦点を今後どこに絞り、どのような特色を出すかについて再検討する必要がある気がします。

●行政が町会・自治会に期待する機能

- ・町会・自治会に対する行政の期待する機能について調べた私の調査結果では、「自主性」に続き共通して高いのは、「継続性」「実行性」でした。これは、NPO やボランティア組織が苦手とする点です。継続して組織的に実行できる体制について、町会・自治会は非常に高く評価され、期待も高いことがわかります。
- ・逆に、町会・自治会への期待が低い「先見性」「効率性」「創造性」は、NPO に期待される役割としてよく取り上げられます。
- ・町会・自治会の「継続性」「実行性」が機能する基盤にあるのは、組や班という単位で情報やコミュニケーションが行われる近隣関係だと考えます。その仕組みが機能しているかを回覧板の利用状況で調べると、東京特別区では、90%以上で何らかの形で回覧板をまわす仕組みがあるといえます。

●地域の付加価値を高める町会ならではの活動 ～地方分散的公共サービス～

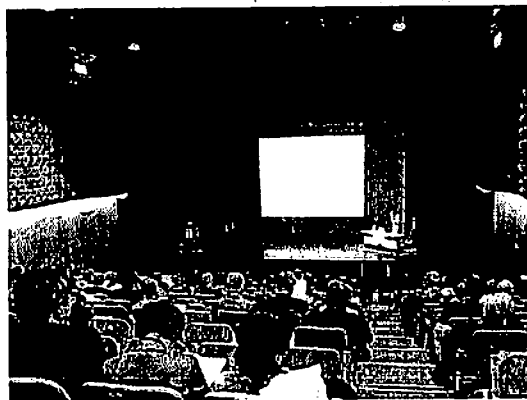
- ・社会が複雑化し、住民の関心も多様化している現代に、公共サービスにも NPO や企業も参入していますが、町会・自治会ならではの活動も存在しており、今後もなくならないと思います。例えば、防犯灯の維持管理や、ゴミの分別・資源回収、迷惑駐車・騒音防止、共有地の維持管理。最近では、災害弱者のサポートも大きな課題になっていますが、これらは NPO には難しい活動です。
- ・防犯灯の維持管理は、地域分散的な公共サービスひとつの例です。政令指定都市クラスの平均は、町会に補助金をだして維持管理をしてもらっている防犯灯の数がひとつの町会・自治会ごとに 20-30 基の計算になります。このくらいの小さい規模で身の回りの電灯を維持管理していくと、どこが切れて、壊されて、葉が生い茂って明かりが不足しているか、などのきめ細かい管理が可能になるのです。
- ・行政と連携してやっていることに対して、町会・自治会は行政の下請け機関ではないかと批判する人がよくいますが、これは必ずしもあたっていないと思います。これまで公共サービスの提供をめぐる合理的な選択が行われた典型的な例が、この防犯灯です。規模の経済性が働きにくく、大規模な行政組織による一括管理では、個別対応にかかる時間やコストが高くなる。むしろ、小規模に地元で管理する方がより効率がよいのです。地域防犯、地域防災、地域のマップづくり、地区広報も同様です。

●町会・自治会ならではの活動 ～コミュニティ・ルールによる地域自治～

- ・コミュニティルールづくり。これは NPO やボランティア団体にはできません。
- ・例えば、NHK でも放映された、札幌市の屯田西団地自治会の住宅内では団地の中の迷惑駐車が冬に除雪の障害になり、車の陰から飛び出した子どもの事故が多発して問題となっていました。そこで団地の自治会が話し合い、レッカー移動をして迷惑行為は許さない、という団地の中のルールをつくり、それをもって札幌市と交渉して協定書を締結し対策に乗り出しました。自治会がまず迷惑駐車をチェックし、レッカー移動の警告を発し、未改善の場合に市がレッカー移動をするという対策の結果、実際のレッカー移動は 1-2 件ですみ、抑止効果で迷惑駐車は根絶されて問題が解決したのです。
- ・成城や田園調布における地区協定による環境の維持や憲章作りも、まさにコミュニティルールです。
- ・このようなルールづくりは、そこに住む人達のほとんどの世帯を代表して合意を形成する町会・自治会であるからこそできる仕組みです。
- ・今日的な課題の中で、共通の利益や公共の価値を守る、かつて村掟と言われたコミュニティルールをつくっていく必要性が増してきているのではないのでしょうか。町会・自治会が果たす役割は決して小さくないと思います。

【町会・自治会の活性化をはかるために～マネジメント手法の応用～】

- ・「遠くの親類より近くの他人」という、そこに住んでいる人たちの地縁的な絆が町会・自治会の持ち味です。親睦事業、お祭りや盆踊りも大事です。
- ・さらに町会・自治会が本来持っている持ち味は、私が「^{まなび}村度の社会心理」とよんでいる「お隣さんには迷惑はかけられない」という考え方、社会規範です。互いにご近所や地域を思いやる気持ちを共有できるかどうか非常に重要であり、それが地域の付加価値を高める、と考えていく必要があるのではないのでしょうか。
- ・今マンションで町会に入ってくれないという話がありますが、今日のように社会情勢が不安定化し、犯罪が多発する時代には、安定した安心できるコミュニティの中にマンションがあることが、マンションにとってのひとつの付加価値を高める手段である、という発想に転換する必要があります。
- ・先達に学ぶこともあります。昭和35年頃に、今もある舟橋会という町会が入会のすすめという文章を新しく引っ越してきた住民に配り、非常に丁寧に入会を案内していたことが、世田谷区史の中に取り上げられています。「町会・自治会に入って当たり前」という前提に立たず、「どうぞお入りください、それによってあなたも快適な生活の仲間に入れますよ」という考え方が昔から世田谷にはあったということです。
- ・このような歴史の積み重ねの上に町会のさらなる活性化をめざして様々な取組を行っていただきますよう祈念をいたします。



6. パネルディスカッション

「町会・自治会活動のさらなる活性化を考える」

パネリスト：日高昭夫 山梨学院大学教授
千葉信哉 世田谷総合支所長
根岸 茂 若林町会長
宮崎春代 大蔵住宅自治会長

コーディネーター：福永順彦 場所づくり研究所(有)プレイス代表

福永 ただいまから、パネルディスカッションを始めたいと思います。テーマは、「町会・自治会活動のさらなる活性化を考える」です。

日高先生のお話をきいていて、歴史からひもとして、町会・自治会のあるべき経緯、町会が特色をだすためにどんなことが必要か、非常に感銘を受けました。

これからは町会・自治会が次のステップに向けてどう活性化していけばいいかを考えていければいいかと思っております。

最初にお二人の会長からこれまで取り組んでこられた活動について概略をお話いただきます。

宮崎 <定期総会で意見交換>

模範になるような活動はしていないと思います。皆さんの町会・自治会でやっている当たり前の活動にすぎないと思います。歴史をちょっと振り返ってみますと、5月の定期総会で始まり、100人からの出席者（例年委任状 250 通）があり、2時間3時間かけてこの時とばかりにいろいろな意見交換をいたします。

<年2回の一斉清掃と古自転車の回収>

年に2回の一斉清掃をします。春の大掃除の時は各段階の委員さん決めをして、その後時間が余りましたら話し合いをしていただいて、自治会への要望やいろんな気付いたことを提出していただいております。その際に、年1回、放置自転車や古自転車の回収を例年無料でやっておりますが、皆さんに喜ばれます。回収台数は多い時は300台くらいでしたが、最近は高齢化していますので150台前後集まります。

<防災訓練>

防災訓練は一般的な訓練で、消火や起震車、煙中訓練、普通救命、時にははしご車の救出訓練もやります。炊き出し訓練として、お米20キロ、おにぎりを2個、バックに詰めて参加者に差し上げたり、豚汁をつくり、最後に終わった時点で皆さんに食べてもらっています。高齢化の中でも、「参加するだけでもいい。見て覚えましょう」と声をかけ合って呼びかけております。その訓練は階段が結構ありますが、皆さんで足が悪い人



の手を引くなどして誘い合っていてやっています。

<有線放送を活用>

いつも大きなイベントについては前日と当日に有線放送で参加の呼びかけをして強化しております。その都度、いろいろな感想も寄せられ、またその時々には反省を含めて次年度に備えてやっております。

<盆踊りと秋祭り>

夏の盆踊り、秋の祭り等については、例年皆さんも喜んでおります。抽選会も1つの楽しみで、誘い合ってきてくれます。秋の祭りについては、日大商学部の学生さんにお願いをして、若さを分けていただこうということで、ジャズの演奏会をやっていただいて、皆さん喜んでおります。

<「語る会」で交流を深める>

語る会ということで年に1回、集合住宅ですので共同生活のルールを皆さんで話し合ったり、このときとばかりに持ち寄ったいろいろなテーマで話し合いを深めております。何をやるにも人集めが大変難しいですが、できるだけ気楽に、皆さんで声をかけ合い、誘いあっております。

<災害時要援護者支援>

災害時要援護者支援の取り組みについては、高齢化しておりますので自分たちが助けてもらいたいということで、この役員会の中でもなかなか話が進みませんでした。新たな民生委員が決まる中で、安心した中でやっと2年目に組織を立ち上げることができました。対象者の顔合わせをやり、さらに話し合いを深めている状態です。

<資源の地区回収>

資源の地区回収は平成17年から始めまして、5年目になりました。区の回収場所に毎週居住者から新聞、雑誌、段ボール、アルミ缶等を出していただくことになっております。指定日より前もって出してしまうと、よくあるのが「抜き取り」ですが、この辺では皆さんが目くばせして、きょうもどこの号棟で盗られたという情報を得てパトロール強化をして、最近は結構落ち着き、回収量も上がっております。

<会費は安く>

自治会の年会費は最初、3,000円でしたが、還元金を少しでも皆さんに返そうということで2,400円になり、2,000円になり、今現在は1,500円です。皆さんの会費を安くして、みんなに入っていたらと取り組んでおります。これは区で進められている加入促進に対して、砧まちづくりセンターでは栗本会長を中心に各町会・自治会のリーフレットを作成しましたので、それに基づいて強化できたのではないかと考えております。

福永 どうもありがとうございました。

大したことはやっていないというお話でしたが、非常にすごい活動を継続的に、それ

も1年を通していろいろな活動をやっていたらという事でした。

ちなみに、大蔵団地は1,264世帯という大きな団地ですね。

宮崎 1,264世帯で、かつてはいろいろな県人、いろいろな職種、子どももたくさんいた時代がありましたが、現在は子どもがみな独立し、親子共々住んでいる家庭は少なくなりました。少し寂しいですが、高齢者が非常に多く、一人住まいも多いです。

福永 今、加入率はどのぐらいですか。

宮崎 128階段あり、ほとんどが輪番制で階段委員を自治会としてお願いしているものから、それをやりたくないということで、かつては100%あったものが今は85%です。

福永 それでもまだ高いですね。団地の階段の両脇には何世帯あるのですか。

宮崎 1つの階段が10軒です。

福永 10軒が1つの班のような形になって、それが集まっている場所ということですね。どうもありがとうございました。それでは続きまして根岸会長、お願いします。

根岸 <大きな町会の利点を活用>

私たちの町「若林」は、環状7号道路を挟んで東側、三軒茶屋寄りを1・2丁目、反対の西側は区役所寄りを3・4・5丁目といった町並みになっております。

町の規模は、世帯数は約1万世帯、人口は17,000という大変大きな町になっておりますが、町会の加入率は隣の大蔵団地さんに比べると大変低いです。これは町全体ですから致し方ないと思いますが、約4,600で5割弱です。



日高先生のお話の中で、細かいところに気がつくには小さな団体をふやしながらやっていく方がベターではないかということであったと思いますが、大きな町会としての利点がありますので、その利点を生かしながら私たちは活動しております。

私たち若林町会では、これからの町づくりを住民のニーズにこたえながら、子どもから高齢者までが安心して住むことができる、そして安全で健康的で、人に優しい、楽しみのあるまちにしていこうというまちづくりをモットーにしております。

<丁目ネットワーク>

町会の組織は、総務、財務、文化、厚生、防犯、防災、環境・保健、交通部という8つの部門に分かれて、それぞれの分野で活動しています。

そのほかに、町会もあまり大きいと細かい部分に行き届かないのではないかとということで、各丁目のネットワークづくりを進めています。例えば、若林1丁目は若林1丁目ネットワークというふうに、2丁目、3丁目、4丁目、5丁目とそれぞれのネットワークの活動しております。原則として月に1回の会合を持ち、情報交換、あるいは町会の主だった事業を紹介しながら、何か行事があれば皆さん方に参加していただくことを

やっております。

<盆踊り>

年間の主な活動は、ふれあい事業の一環として、私どもも夏祭り、盆踊り大会を7月後半の土曜日・日曜日の2日間実施しています。参加人員は2日間で約2,000人から2,500人という大変大きなイベントになっております。若林の町だけではなく、近隣の方々も参加しているということです。町内の5つの商店会の皆さんにも参加していただき、商店のテントを5つ張り、それぞれ露店を出して盆踊り大会を盛り上げていただいています。そのほかにも、スポーツ・文化団体、あるいは社会福祉協議会、小中学校のPTAの協力で約20張りのテントを張っています。その中で多くの方々が参加しながらふれあい事業を行っています。

<ラジオ体操と例大祭>

学校の夏休み後半の8月21日から30日までの10日間は、PTAの方々に手伝っていただきながらラジオ体操をしています。1・2丁目は、環7の東側は神社の境内、3・4・5丁目は区役所そばの若林公園の2カ所で実施しております。昔は子どもさんを対象ということでしたが、最近はお年を召した方、会社に行く前に体操をしていこうという方々も含めた参加があり、400個ほどの参加賞を用意して最後に出します。9月には秋の例大祭ということで、御神輿、演芸、露店などを若林町会で管理しております。

<敬老会には550人が参加>

10月中旬の日曜日には高齢者を対象とした事業として敬老会を実施しています。若林の町会というよりは町の中で75歳以上の方が対象者になりますが、ことしは1,600数十名の方々に参加・不参加の往復はがきを出しました。希望者が約600名、実際に参加した方は540名から550名、小学校の体育館が満杯になりまして、お見えになっていた千葉総合支所長も大変感心をされておりました。これは町会員だけを対象ということではなく、全員に案内を出しています。ある老人が私どものところに電話をかけてこられまして、私は町会員ではないですが、参加していいですか、という話がありましたので、ぜひ皆さん方と一緒に敬老会を楽しんでくださいと言うと、町会に入るにはどういう手続きをとったらいいのですかという問い合わせを毎年2、3件受けます。これも町会の加入促進の一助になっていると思います。

<年末パトロール>

年末の26日から30日までの5日間は、各丁目に5カ所のパトロールの拠点を設け、午後8時から1時から1時間半ぐらい、一斉に町内の防犯・防災パトロールをしております。

このように地区ごとにやっていると、役員さんだけではなく一般の方々がそれに興味を持ち、あるいは町のお手伝いをしましょうと参加し、それが町内の活性化につな

がっていくのではないかと思います。

福永 ありがとうございます。

根岸会長には、「なぜそんなに根岸会長のところは活発ですか」とよく聞かれるというのですが、秘訣などたくさんお聞きしたいことがあります。町会の規模としては、恐らく区内で一番大きいぐらいでしょうか。

根岸 世田谷には196の町会がある中で、町会の規模としては2、3の中に入ると思います。

福永 全体のメリットと、丁目ごとのネットワークと2本立てでやっていらっしゃるあたりに何かヒントがありそうだと思っております。ありがとうございました。

続いて千葉支所長にお願いしたいのですが、今のお2人のお話を聞いてでも結構ですし、そのほか、どこかの地域のいい活動や行政としても協力していきたいと思われた事例がありましたらご紹介ください。よろしくをお願いします。

千葉 世田谷の総合支所長の千葉と申します。この4月に就任いたしました。

少しだけ自己紹介をさせていただきます。私は北海道の釧路で生まれましたが、釧路から離れて約40年になります。かつて釧路は炭坑、漁業、パルプの3つしかないような町ですが、炭坑はなくなり、漁業も少しつらい。パルプも外国に押されてはかばかしくない。人口は40年前から約20万人と全く変動がありません。



私はこの4月に世田谷の総合支所長になって、ふと人口を見ましたところ、世田谷地域だけで23万人ですから、その規模だけを考えますと、釧路市長になるのがよかったのか、世田谷の総合支所長になって少し名誉かなと、個人的には思っております。

<安全安心の取り組み>

さて、世田谷の関係だけのご紹介になりますが、いろいろな事例がございます。今、お話がありました宮崎会長と根岸会長のお話の中に、地域社会における大きな課題のヒントがたくさん詰まっている感じがしております。

今、熊本区長が「安全安心のまちづくり」ということに非常に力を入れております。平成14年度に若林町会が全国防災まちづくり大賞（総務省）の消防庁長官賞を受けられました。その後も平成18年度に桜ヶ丘1丁目町会が消防の防火科学総合センター理事長賞を受けております。平成20年度は下馬の2丁目北町会が、30年にわたる町会ぐるみの防災活動について、同じまちづくり大賞の中で全国の事例として紹介されるなど、世田谷地域は防災関係に非常に顕著な事例を残しています。

世田谷地域は密集住宅があり、安全安心の部分に注目しなくてはいけない町会がたくさんあります。若林町会さんはさまざまな事業をやっておられて、最近でも若手の人材

活用ということで国士館大学と提携をしたり、学生に対してもさまざまコネクションを持っておられます。桜ヶ丘1丁目町会は、東京農業大学の学生さんと提携した事業をしておられ、災害が発生した時には、東京農業大学の相撲部、柔道部の学生が町会長のご自宅に集合して活動に参加することになっています。防災訓練では人が搬送のシミュレーション訓練に参加するなど、町会は当然、高齢化の問題はありますが、若者の部分についても力を発揮されているということで今、2つの話をしました。

<絆再生に力を入れる>

世田谷区では地域の絆再生支援事業を展開して今年で2年目になります。ポイントは、熊本区長が2年前から絆再生に力を入れていることが特徴的と改めて私も思います。この再生支援事業は、町会・自治会などのいわゆる地縁団体や他の地域活動団体とのつながりを前提にした事業であること、地域の課題に取り組み地域に貢献する事業であることを満たす事業に対して昨年度は90件以上を区としては支援させていただいております。今年も90を超える各活動団体の方々にご協力いただいております。

その中で、先々週、その支援でいろいろな活動をした方々が集まる交流会がございました。単に自分たちだけで完結するのではなく、全体で共有しようというなかなかおもしろい試みです。改めてすごい仕掛ではないかと思っております。その絆再生支援事業から1つだけ紹介したいと思えます。これは実際に私が参りまして拝見した事例です。

<パソコンで町会活性化>

それは、パソコンを通じてさまざまな町会関係の資料づくりを高齢者の方がやっておられる事例です。私が参りましたとき、エクセルで名簿をつくっておられました。かなり高齢の方で、始めて1年ぐらいとのことでした。まちづくりセンターのいわゆる「まち担」の職員がさまざまな努力をして、放送大学とも連携をして、町会の役員さん達がサロンに集まりいろいろなおもしろい展開をしています。いろいろな地域展開ができており、なおかつ地域の人々が集まり、パソコンを学ぶ人がわからない人に伝え、わからない人がもっとわからない人に伝えていくというシステムチックなこともやっている。民間のパソコン教室に通うと結構なお金がかかる上、架空の書類などを使って覚えることが目的ですが、この駒繫西自治会さんでは、名簿をつくる作業が伴うなどの目的があり、それが町会の役に立っているという意識があって初めてこのようなことができるのではないかという印象を持ちました。

福永 ありがとうございます。

日高先生。今日のご講演の中で札幌の事例、あるいはマンションのコミュニティの事例もご紹介いただきましたが、ほかに印象に残っている活動事例がありましたら少しご紹介いただきたいことと、私は個人的にはマンション住民が町会に入らないという問題がある中で、実はそのマンションの中でコミュニティが重要視されていて、それが価値

につながっているという話を興味深くききました。そのあたりで、もう少し追加でお話がありましたらお願いしたいと思います。

日高 <マンションの部屋から地域へ>

もともとマンションに居住する人たちが、自分のプライバシー空間を確保することが非常に重要な考え方であり、生活していく上での価値でした。ただ、そういう考え方の延長線上には、例えば非常に閉鎖された空間の中で虐待やいじめが起きたりすることも一方では社会問題になってきています。社会生活というのは幅広くいろいろな人たちの協力や目に見えない形で提供されている支援の輪の中で生活が成り立っているという意味では、ひとつの居住空間を社会関係と全く切り離して考えていくという考え方自体に少し無理なところがあると私は思います。



そのことのひとつのあらわれが、世田谷でも大きな課題として一生懸命に取り組んでおられるような安全安心のまちづくり、つまり防災や防犯というようなものでしょう。いくら自分で自分の部屋を死守しようとしても、災害なり犯罪に巻き込まれる可能性はどうしても避けられないわけです。そうすると、内から外に目を向けて、まちという視点で自分の居住を見直していく考え方が共有されていく必要があると思います。

先ほど紹介したようなマンションの中にも、建設業者や管理会社、地域の自治会、行政が協力し、コミュニティを新しくつくり、そこに居住する人たちとも共有していこうという取り組みがあります。条例を作っている金沢市など、行政と自治会、業者が連携を図りながら、コミュニティをマンションとセットで販売していこうという取り組みが、都市部で広がる兆しが出てきています。

特に世田谷のようにもともと居住環境の価値の高いところでは、環境を維持したいということについての関心が非常に強いでしょうし、またそういう取り組みをされてきた実績もありますから、これからはコミュニティを含めた社会環境をみて、どこに住むか、どういう住み方がいいかを判断する流れになっていくのではないかと思います。

そういう意味ではいくつかの事例を行政の方でも関心を持っておられるし、業者側でも今までのように建てて売ればよいという考え方ではなく、地元との協力関係の中で良好なコミュニティを形成することでマンションの価値を高めていくという取り組みが広がっていくのではないかと思います。

福永 ありがとうございます。

環境に対して皆さん関心があるので、世田谷ブランドとなり、新しく世田谷に住みたいということに来る方もかなりいると思います。

マンションの中でコミュニティをつくらうという動きについては、それをもう少しま

ちの方にも目を向けていただいて、町会と連携していくような動きにどうつながるかがひとつ課題とっております。

4人の方々からお話をいただきましたが、さらに一歩進めまして、こういういろいろな取り組みが行われている中の課題や、やってきたことがよかったという事例に踏み込んで5分ぐらいでお話しいただければと思います。

宮崎会長のところでは、日ごろのつき合いを大切にしながら人のつながりを広げていらっしゃるということですが、それでも災害時要援護者の支援をしていく時にはゆっくりと時間をかけているというあたりのご苦勞と、普段これをやっているから結構うまくいくのではないかと、というお話がありましたらお願いします。

宮崎 よくお会いする人々には常に声をかけ合います。積み重ねの中で、自治会未加入者であっても何年か後に「入りましょう」と言ってくださる方がいました。

電気の明かりで家にいるかいないかがわかりますので、夜にパトロールをやりますが、結構話に乗ってくださいました。そういう積み重ねもあります。

全体を通して、すべてに関心がある人は3分の1強でしょうか。自治会でいろいろなご寄附、署名活動、回覧、提出物が速やかに回り、提出される状況からの判断です。さらに皆さんに知らせて、徹底強化していきたいことは、役員をはじめ合同の代表、階段委員さんです。

とにかく皆さんで声をかけ合ってやることでいろいろつながるということを実感しています。とかく、越してきた人のあいさつがない、ということが聞かれますが、前から住んでいる人からも声をかけてほしい、と言ってあります。このように、いろいろ粘り強い努力の積み重ねがあったと自分なりに思っております。

福永 団地の中では女性の方がこまめに見ていらっしゃると思いますが、一方で男性の力も必要になると思いますが、そのあたりはどのようにしていらっしゃいますか。

宮崎 町会長さんは男性が多いと今日の会場でも感じましたが、女性は主婦の立場でいろいろ仕事を持っていても出やすいのか、女性が大半を占めるような参加率です。その中に男性は男性なりの持ち分野で出てくださいますが、私どもの場合はもう少し男性の力がほしいと思っております。

福永 どういうところで必要ですか。

宮崎 やはり女性ではできない部分があります。いろいろな準備の中で力仕事などは男性を頼りにしたいです。

福永 防災部員は男性の方ですか。

宮崎 それは同じぐらいいます。高齢者の中で防災訓練も一生懸命やっています。つい先日は恥を知らながらも砧地域のD級ポンプ（訓練）に参加しました。高齢者のチームでしたが、やはり最下位でした。ふだんは女性が家を守っていますので、最低限はできるこ

とも必要と考えて参加したことに意義があると思っています。

福永 団地の中で高齢化が進んだ部分もあると思いますが、その中で次世代の若い方にも活動を担っていただきたいと工夫している点がありますか。

宮崎 団塊世代で家にいる方、PTA関係の方、小中学校の校外さんにも年末パトロールを皮切りに、一緒にやりましょうと声かけをしています。イベント等についても、遅ればせながらPTAコーナーもやり、盛り上げてほしいという呼びかけをしている段階です。

福永 どうもありがとうございました。基本的には常に声をかけ合い、お互いに顔見知りになって、女性ならではの、男性ならではの部分をうまくいかしながら、先ほどのお話では日大の学生さんがジャズの演奏会をやっていたらという事でしたが、いろいろな方々とうまく連携している、と聞いていて思いました。最後のPTAという形もこれからはいいと思いました。



続いて根岸会長。先ほど少し私が言いかけてましたが、「なぜ根岸会長のところはこんなに活性化しているのですか」という話ですが。

根岸 我々が動かなければ部員の人たちやほかの役員さんもなかなか動きにくいと思います。

私どもの町会の取り組みとして特色があるのは、先ほど少しご紹介しました各丁目のネットワーク事業です。1丁目から5丁目まで、1丁目ネットワーク、2丁目ネットワーク、3・4・5と、各丁目です。毎月1回の会合を開いています。当初、これは防災ネットワークという形で立ち上げましたが、町会の活動は防災だけではなく、防犯あるいは環境、福祉の問題等々、いろいろ活動を含めて今の事業を進めております。

その中で防災ですが、年に1回、各丁目です。防災教室という名目で各地区の路地裏や小さな公園の中で街角防災訓練をします。先日もそうでしたが、路地裏で防災訓練をやっていると、近くの団地の人たちが自分のところの前でやっているのだから参加しないわけにもいかない、あるいは参加してみようかという興味も持ち、町会の活動事業が見えてくると、町会は大変だな、我々も参加したらどうかという意識までわくと思います。ことにマンションの子どもさん方が興味深く放水訓練などに参加する形で事業を進めています。若林町会としてはこのネットワークの防災訓練を5回、そして3つの小中学校です。総合防災訓練を3回と、防災に関する活動はかなりやっているといます。

先ほど総合支所長からお話がありましたように、総務省の平成14年第7回防災まちづくり大賞の消防庁長官賞を受賞しました。これによって、若林町会の取り組みについての講演依頼が、遠くは大阪の岸和田市、仙台の社会福祉協議会、武蔵村山の団体、江東

区などからありました。

さらに、筑波大学のゼミの先生が若林の町を見て勉強してみようと、まだ直通電車がなかったころですから、筑波から朝早く出てきてお昼にようやく着くという中で、約30名のゼミの生徒さんたちと来られました。その中で私たちが説明をし、いろいろな質問を受けましたが、その結果、できた論文を一部私どもに送っていただきました。海外からもカリブ海の沿岸諸国地域海外研修でたくさん来られまして、通訳を交えて若林の町を見て勉強をして行かれました。

福永 そのような事業をこれから継続させていくことについて、どういう課題あるいは展望をお持ちですか。

根岸 せっかくこのような事業をやっても、途中で途切れてしまっただけでは何にもならない。継続が大事です。しかし、苦しいことばかりやってもなかなか継続できないので、時には楽しいこともやろうと、年に1回研修会を開いています。バス1台を仕立てて、静岡、厚木、深川の防災センターなどを見学しながら、どこか1カ所楽しみのあるところを周り、旅行もしています。

福永 次の世代への引き継ぎはどうですか。

根岸 やはり我々はいつまでもやっているわけにはいきません。若い人たちにも活動に参加し、認識を持ってもらわなければ町の中の活動は続かないと思います。

私どもの事業の中に、盆踊りの途中で1日昼間にやる子ども祭りがあります。小学校の児童や近隣の子どもさんたち対象です。子ども祭りというと、小学校のPTA主催ということが多いと思いますが、私どもは町会で費用を出して開催し、今年で25回になります。これも継続の1つです。子どもさんたちが対象ですから、お母さんやお父さんたちと一緒に1日を楽しんだり、活動を理解しながら参加いただきます。

それと同時に、他の町会も同じだと思いますが、学校協議会は町会の人たちにも参加を促しています。我々も参加し、学校のPTAの方々、青少年地区委員会の方々と出会います。また町会の行事にはおやじの会、NPO法人の人たちにも参加していただき、理解いただいて、これからそういう人たちを育てていきたいと思っています。実際に町会の理事、役員さんの中に30代~50代の方が10人ぐらいいますが、まだ現役ですので年中出てくるわけにはいきませんが、大きな事業の時には参加いただいています。

福永 ありがとうございます。

「町会の活動が見える」街角の防災訓練、PTAのお母さん、おやじの会、NPO、青年部的な活動で継続していくなど、かなりいろいろなヒントがあったのではないかと思います。

千葉支所長、今のお話を聞きながらでも結構ですし、行政の立場からこれからどういことが支援していけるのかという話をお伺いできればと思います。今、お2人から

出たのは、PTAを巻き込みたいなど、学校教育との絡みも大事かと聞いていました。そのあたりも含めて何か示唆していただけることがありましたらお願いします。

千葉 宮崎会長、根岸会長から非常にすばらしいお話をうかがいました。

防災関連で言いますと、お話にもありましたように、町会の役割としては孤独死の問題も生じています。先日新聞を見ておりましたら、必ずしも高齢者だけではなく、1人世帯は全国の数字で35%を占めているという状況もあります。その中で、先ほど宮崎会長からあった、夜のパトロールで明かりが消えているか点いているかで町の状況を把握するという話は、我々の発想からは出てこないと思い、なるほどと思いました。

少し話がずれるかもしれませんが、ある学校が統合されて、実は根岸会長と私はその学校の建設に関する委員会に入っておりますが、その中で私は根岸会長のお話にうなづいてしまいました。それは、根岸会長が、「統廃合されてなくなる学校の方の子どもたちの気持ち・心にどう配慮するか」という視点の話しをされた時です。具体的に言いますと、例えば校門1つとっても、離れたところにつくってしまうと、旧の学校にいた子どもたちは今まで通っていた道とは全く違う道を通ることになるので、わずかでも自分たちがかつて通っていた学校への道のりをかぶせてあげると、それが子どもたちの気持ちに添うことだというお話をされて、私は非常に衝撃を受けました。我々は何かをつくる時に、どうしても頭からものを考えてしまいます。根岸会長のお話を聞いて、世田谷の歴史であるとか、世田谷の子どもたちの状態を考えたきに、校門1つにもどこにつくるか、どこに配置すべきか、ということについて町の人たちの関心と知恵がある。我々の方からはそういう発想は浮かびませんでした。

我々は行政の立場で一生懸命考えていますが、行政ではなかなかかなわないこともあるし、一方では町会・自治会でかなわないこともあります。ただ、町のことをよく知っているのは、やはり地域に住んでいる住民の皆さんだろうと思います。

ひるがえって、地域の皆さんの声を一番知っているのは出張所の職員であり、まちづくりセンターの職員だろうと思います。私は4月からの経験ですが、出張所の職員のアンテナの張り方は、実にすぐれたものがあります。そういう出張所の職員を介してさまざまな情報や知恵をいただくことを通じて、行政と町会・自治会とが協働していくことが、いろいろなものをつくっていくきっかけになるのではないかと考えております。

福永 どうもありがとうございました。

日高先生、今のお三方のお話を聞きながら、地場の視点から皆さんが町づくりにかかわっていることやまだ課題があることを感じつつ、先ほどの先生のキーワードの中の、継続性、実効性などが今出ていたよ



うに思います。

もう1つ公共性というところでは、最初に根岸会長が、町会には入っていないけれども、どうぞ、どうぞ、と言って誘うという、これはまさに公共の視点です。しかし、実際にはお金がかかっている部分もあり、そのあたりも、フリーライダー（ただ乗り）というのはあまりいい印象のない言葉ですが、そういう課題もありそうだと思って聞いておりました。

これから町会の活動を活性化していくためのヒントになるようなお話がいただければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

日高 私からそういうヒントになるような話というよりも、むしろ現場で一生懸命頑張っておられる方々から私が学ぶことの方が多かったです。

先ほどの話の流れとの関係では、マンションの中の自治会的な活動とその地域の町会との関係も含めて、町会・自治会活動に対してより幅広い参加をいただけるような仕組みを考えていく上で、これまでの歴史の1つの知恵は、いろいろな状況の変化、社会経済情勢、その時々地域の課題に応じて、あるときはスタンスを広くとり、あるときは狭くとりという振り子の原理です。町会は歴史的に行政と振り子関係で、時には小学校をつくるようなことにまで踏み込んで支援をしている時期もあれば、ぐっと引いて、親睦団体として地域の人たちのまとまりをつくるという役割をしているときもあります。

言い換えればその「伸縮性」が、継続性を担保してきた根拠の1つだろうと思います。その伸縮性を可能にしたやり方の1つとして、例えば新しくできた団地が非常に大規模な場合、町会とは少し違う考え方で自治会のようなものができて、それは1つの独立した自治会として受け入れていくということになるでしょう。あるいは1つの町会の中にマンションやアパートができていくときに、それを町会としてカバーしてその会員になっていただくというやり方があります。あるいは、その中に多様性を認め、例えばマンションの管理組合が1つの自治会として機能し、そこの町会と連携をとっていく。その場合には必ずしも町会の下部組織的な意味合いではなくその地域のマンションの人たちと連携を図っていくための新しいルールを柔軟に考えていくという、「重層性」と言ったらいいのでしょうか、いくつもの層が積み重なって大規模化したり範囲が広がっていくときに、そういうものを多様に積み込んでいくような知恵が、昔からずっと継承されてきたのだらうと思います。

特にマンションがたくさんできて、町会加入が必ずしも進まないという状況をもう一歩先に進めて理解を得ていくときに、違うルールを許容し、しかし大枠としては全体の町会として一緒に協力してやっていきましょう、というしなやかさのようなものをこれまでも発揮されてきました。さらに柔軟なつくり方を今後進めて若い人たちを取り込んでいくことを1つの焦点にした取り組みが課題の1つかと思います。

福永 ありがとうございます。しなやかさというのは、言葉としてもいいですね。一方で、したたかでもある、というような感じでなかったらこれだけ継続してこなかったと思います。その時代の時々で若干社会のニーズは変わっても、その中で町会の持っている仕事はきっとなくなるだろう、と聞いていて思いました。

時間が迫ってまいりましたので最後に、これからやってみたいこと、次の課題への取り組みについて、一言ずつお聞きしたいと思います。

宮崎 再三申し上げておりますが、やはり高齢化が区でもダントツではないかと思えます。災害時要援護者支援の取り組みに対しては、本当に助ける必要のある方は一人暮らしの方、友だちのいない方、身寄りのない方、家庭に引きこもった方ではないかと思えます。そういう方々をどう外へ連れ出すか、そういう活動にいかに参加できる工夫があるかということも考えて、災害時要援護者支援の取り組みを、民生委員の方と心を共にして、さらに7つの班に分かれて30人の対象者がいます。その方たちを訪問する中でよくコミュニケーションをとって近づいていき、もっともっと協力者を募り、みんなでやる態勢づくりをしたいと常々思っております。それが「安全安心」に住むということと思っております。

福永 どうもありがとうございました。では、根岸会長、お願いします。

根岸 平成7、8年にタウンウォッチングをして、私どもの町を全部回り、こういうところが危ない、ここは道が細い、ここは行き止まりの道だよ、という場所をチェックして提言書に書いて行政、区に出しました。

人と人の触れ合いの場がないとなかなか事業が進まないという意見があり、若林1・2丁目地区（環7東側）には公的な施設で人が集まることができるところがありませんでしたので、人が集まれるところを設置してほしいという提言をして、数年前には若林集会所ができました。また、この地区には公園（広場）がないので必要だという指摘もあり、それから3年ぐらいたって行政に提言をして、ようやくできました。

広域避難場所については今、若林公園、世田谷区役所近辺、国士館近辺が広域避難場所になっていると思いますが、その前は馬事公苑でした。馬事公苑まで歩いてみて、こんなところまで避難するのは大変だ、避難するうちにみんな死んでしまう、という指摘があったので、近くに広域避難場所を設置してもらいたいという提言をいたしました。

今、盛んに災害時要援護者支援事業がいろいろ取りざたされ、大蔵団地でも一生懸命それに取り組んでいるということですが、実は若林町会でまずやったことは、とにかく地図を作り分けをした中で、若林町会の役員さんだけでなく、社会福祉協議会の役員さん、あるいは民生委員協議会、日赤の奉仕団、消防団、ボーイスカウト、身近なまちづくり推進協議会、青少年地区委員会、各小中学校のPTA、各商店会、スポーツ団体といった、あらゆる団体の人たちも含めて、町の中を見守ることでした。災害時にも

し何かあったときに助け合おうということではなく、普段からの見守りが必要だと思います。それには先ほど日高先生の方からもお話がありましたが、隣組の関係、回覧板の関係を活用しながら、町会が核になってほかの団体を取りまとめていけばいいと考えて事業を進めている最中です。

福永 ありがとうございます。それでは千葉支所長、お願いします。

千葉 私は23区の職員が管理職になるための論文の試験に頭を悩ませまして、1行書くのに半年ぐらいかかりましたが、今それをふと思い出しました。23区の共同試験ですから、世田谷という名前を入れると0点になってしまうという話があり、かつて私が合格したときの1行目は、「東京は魅力あふれる町である」と書きました。本当は「世田谷は魅力あふれる町である」と書きたかったのです。その後続く「この地域に魅力ある人々がいる」との2行が私にとっての管理職のスタートだったように思えます。

世田谷区全体で196町会・自治会がごさいます。この会場には区と非常に関連の深い皆様においていただいております。我々は町会・自治会の役割は非常に重要だと思っております。これを話し始めると15分ぐらいかかりそうですから主旨だけ申し上げます。

区としては、町会・自治会が地域活動団体の核としてぜひ活性化をしていただきたい。そのために区としても支援をする。だれもが安全で安心して暮らしていくために、地域の絆、支え合いはあらゆる意味で不可欠です。新政権の首相の所信表明演説の中にも「地域の絆」という1項があります。少し主旨は違いますが、やはり日本全国の中で「地域の絆」ということが1つのキーワードになりつつあります。

少し自慢しますと、数年前から「地域の絆、絆再生」ということをキーワードに世田谷区がさまざまな事業を展開してきているので、我々にとっては当たり前のように思いますが、世田谷は先進的な行政を進めてきているのではないかと。それはとりもなおさず皆様の存在があるからだと思います。

支所長としては、今後の皆様のさらなる協力をお願いいたしまして、私の最後の締めとしたいと思います。ありがとうございました。

福永 どうもありがとうございました。それでは日高先生、最後に一言お願いします。

日高 私自身が励まされるようなお話をたくさんいただきまして、本当に来てよかったと思います。今の千葉支所長のお話で、23区では世田谷区と書くことだめだという管理職の採用試験が行われていることを少し問題だと思いましたが、これは23区という特殊な仕組みの1つのあらわれかもしれません。

先ほど根岸会長さんと宮崎会長さんも話されましたように、暮らしやすさを高めていくポイントは、その地域について熟知されている人たちが自分たちのまちのことを一体どのようにしていくのかということであって、その基本が揺らいでしまうと、とってつけたような話にだんだんなってくるわけです。逆に行政の職員も今、世田谷は23区の中

でも支所制度を非常に充実させてきて、コミュニティ行政に対して非常に大きな力を入れているところです。

そういう意味ではここにいらっしゃる町会長さんや自治会長さん、今、お話しいただいた根岸会長さんや宮崎会長さんのような、ある意味で職員を育てることのできる視点を持った活動を身をもってされていることがうまくかみ合って、いいまちづくりにつながっているという感じをますます強く持ちました。

しかも、先ほどの根岸会長さんのお話の中でつくづくそうだと思いますのは、行政に対するいろいろな要望についても、何が一番説得力があるかという、先ほどタウンウォッチングの話をされましたが、その現場のことについて熟知されていて、ここにこういう問題があると指摘されて、もしそのことが大きな問題になってこういう事態になった時にはどうなりますか、という問題提起なのです。しかもそれについて、ではこういうふうにしたらいいというご提案を調査に基づいてされています。これは難しく言えば一種の政策提言であり、それを行政が受け止めてまちづくりに活かしていく、という好循環がうまくまわっていくことが、住み良いまち、多くの人に支持されるまちのあり方につながると思います。世田谷の町会・自治会の取組みは進んでいると思っていましたが、予想をはるかにこえた最先端の取組みをされていると感じまして、むしろ参加させていただいたことに感謝申し上げて発言にかえさせていただきたい。どうもありがとうございました。

福永 どうもありがとうございました。

これまで町会・自治会では、「知り合い、ふれあい、支え合い」の活動を進めて参りましたが、宮崎会長や根岸会長からもお話しがあったように、日頃のお互いの顔をあわせてやっていくこと、町会がある意味地域の核となっていていろいろな組織を束ねられる機能をもっていたこともわかりました。今日私が非常に印象に残ったことは、つながってきたということはそれなりの役割があり、それはしなやかさであり、したたかさであるということ。現場を熟知していること。そこからの発言、アイデア、知恵がこれからまちにとって大事になってくるのだろう、ということです。

私が最後に一番いたいことは、これまでやってこられた町会・自治会の活動はおそらくまちがってなかったということです。それを自信をもってこれからも進めていきたいですし、私自身も取り組んでいきたいと思いました。もしも最近、町会・自治会はだめだという人がいるとすれば、どうせだめだろうと思って自分達がやらないとか、若い人にはわからないだろうとあきらめること。これはまずいだろうと思います。改めて自分たちがやってきたことは正しかった、これからもやっていく、という決意を新たにして、今日の交流会の締めとさせていただければと思います。以上でパネルディスカッションを終わりにしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

7. 世田谷区町会総連合会 長島清一副会長 挨拶

皆さん、大変お疲れさまでした。お忙しい中、ありがとうございました。ありがとうございました。

今日のパネリストの皆さんと日高先生、ありがとうございました。

私たちはこれをひとつでも身につけないといけません。そう思います。話しをきいて右から左に抜けたのではまちはよくなりません。お互いにふれあい、お互いが一本にならないとだめです。

私たちのまちも一本になってやっています。皆さんもひとつになってやっていただければ、まちは明るくのびると思います。私たちも一生懸命やりますので、町会連合会に合わせていただいて、皆さんも協力のほどよろしく願いまして、閉会の挨拶とかえさせていただきます。

本日はありがとうございました。

